

環境共生産地 i n f o ネット

～二戸・久慈地方の取り組み～

管内で生産される食材の佳さを実需者に伝えよう！

久慈・二戸地方振興局では、県北圏域の食産業振興の中心戦略として位置づけられている、雑穀、短角牛、やまぶどうの3大クラスターの形成に向け、(株)グッドテーブルズ代表の山本謙治氏をアドバイザーとし、商品企画開発・情報収集・営業活動等に圏域が一体となって取り組む「県北圏域3大クラスター推進事業」を展開しています。

本事業の企画第1弾として、7月14日に首都圏のレストランシェフ・料理関係メディアを対象とした「いわて短角和牛セミナー」を恵比寿で開催しました。当日は、ラ・グラディスカオーナーシェフ堀江純一郎氏の調理による短角和牛・雑穀料理の試食の他、



山本謙治氏による講演

パネルディスカッションが開催されました。

参加者の中にはミシュランガイド東京 2008 で星を獲得したレストランのシェフも含まれており、「肉の旨みがすばらしい」、「雑穀のレシピが参考になった」等の評価をいただいた他、取引開始のオファーも出てきました。

今後は、県内産地探訪ツアー等を企画しており、産地と実需のマッチングをより強固なものにしていく予定です。(普及現地情報より)



タリアータ(薄切肉料理)の食べ比べ

産直「ゆうきセンター」エコファーマー集団認定

7月23日、洋野町大野庁舎においてエコファーマーの集団認定式が行われました。

認定されたのは全員道の駅おおのキャンパス内の産直「ゆうきセンター」に出荷している生産者です。新規認定、内容変更を合わせて20名が認定され、安心して食べられる農産物の生産と消費者から信頼される生産者になることについて改めて確認をしました。

現在、センター内にエコファーマーコーナーの設置が検討されており、来年からは認定を受けた18品目の農産物がコーナーを賑わすこととなります。生産者の顔が見える農産物が求められるなか、ゆうき

センターでは産直ならではの消費者と距離をおかない生産と、より信頼される販売所を目指し、これからも活発な活動を続けていくことにしています。

(普及現地情報より)



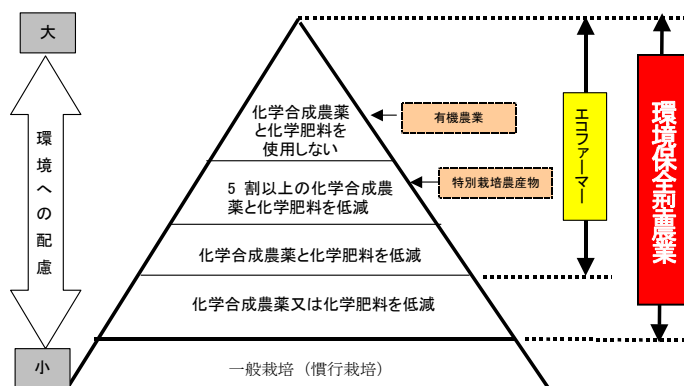
シリーズ これってどんな意味？

このコーナーでは、環境と共生する産地づくり基本計画にでてくる様々な用語等について説明していきます。
第2回めも 引き続き【環境保全型農業】について説明します。

今回は環境保全型農業の定義を説明しました。それでは環境保全型農業に取り組む生産者とはどのような取り組みをしている生産者を言うのでしょうか？

一般的には化学合成農薬や化学肥料の使用を低減した取り組みを行っている生産者を指します(右図)。

環境への配慮が大きいほど技術が難しく、取り組む生産者は少なくなっていくます。



シンポジウム開催のお知らせ！

日時：平成20年9月6日(土) 10:00~12:30

場所：北上市「岩手県農業研究センター」(北上市成田20-1 TEL0197-68-2331)

内容：○ 基調講演

「環境保全型農業の意義と実践 ―時代の要請と変革への挑戦―」

まつもと さとし
全国環境保全型農業推進協議会長 松本 聡 氏
東京大学名誉教授

○ パネルディスカッション

「環境にやさしい米づくりに向けて ～栽培技術の課題～」

と題して4人のパネラーによるパネルディスカッションを予定しています。

小島幸喜 氏(岩手県有機農業推進連絡会長)、菅野幸蔵 氏(北上市口内環境対策委員会)、
多田勝郎 氏(岩手県農業研究センター)、泉野奈緒子 氏(岩手県食の安全安心委員会委員)

次回シンポジウムは、平成20年11月2日 アイーナで開催予定です。講師には科学ジャーナリストの松永和紀さんをお迎えし、農業についてわかりやくお話しをしていただく予定です！

岩手県ではたくさんの農家の方が保全型農業に取り組んでいます。今回、岩手県では「環境と共生する産地づくり基本計画」を策定して、環境保全型農業に取り組む農家のみなさんを応援することになっています。この計画は、国の有機農業の推進に基づく県の基本計画としても位置づけ、環境保全型農業(有機農業も含む)の技術開発や消費者理解の増進等を図ることとしています。

残念ながら、これまで農家の皆さんがどのような技術を用いて有機農業を行ってきたのかは詳しく把握できていませんでした。このため、現在、現場を巡って農家の皆さんから技術的な問題についてご意見を伺っています。

現場を巡っている中では「雑草対策が解決すれば有機農業をもっと広げたい」との意欲的なお話の他、「消費者の皆さんがもっと理解してくれればいいんだが・・・。」などの悩みも話されました。皆さん、大変ご苦労されているとのこと、こうした農家の皆さんの役に立つ技術を早く開発するとともに、消費者の皆さんに対して、環境保全型農業をもっと理解していただく取り組みをすすめたと思います。(事務局)